仲街艶談

全

208
49

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

序

暖簾風よ鶯が為へ袋招き珠子も
現なき袖八賢を賢とし色小鳥を
唐土の祝仁ぐ忘て袋い。扶毎日とホ
過ひ事ち云ハ妓女の沢山ぶ。書
出ち連歌中裏の。小指も及ぶ徴ち

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

穿鑿し一切遊の十二分二分の詞共
合して一部の書を為す宮高慢の人
家を忘れ掘抜の足代なるも高く登る風雲の
癖を穴百入山を策を採作者八当
書実記し流義沢も広遠の秘粧
を晋謝出水揚出気てトツチリトシト

梳三味の気に上るの猥唄馴深乃
出るの花の出水山そだる妓女を一すきい
ゆう俗駒のちゆくい幕の果も翻出
茶屋の三下りを唄食客の指図を
聖女嗚呼恐入お詫を拵る扶ると
知らぬ先生の言をかんなを怒を

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

孫〻と已ぞ草羽織も顧ず雪を踏
の送り。吊も此世の婦を乞ふ
懸場の祝を居て赤帽の法を是を
忘し古連ナ内宮ョと爾云
手時寛政士の左の義
山東住春恵不出

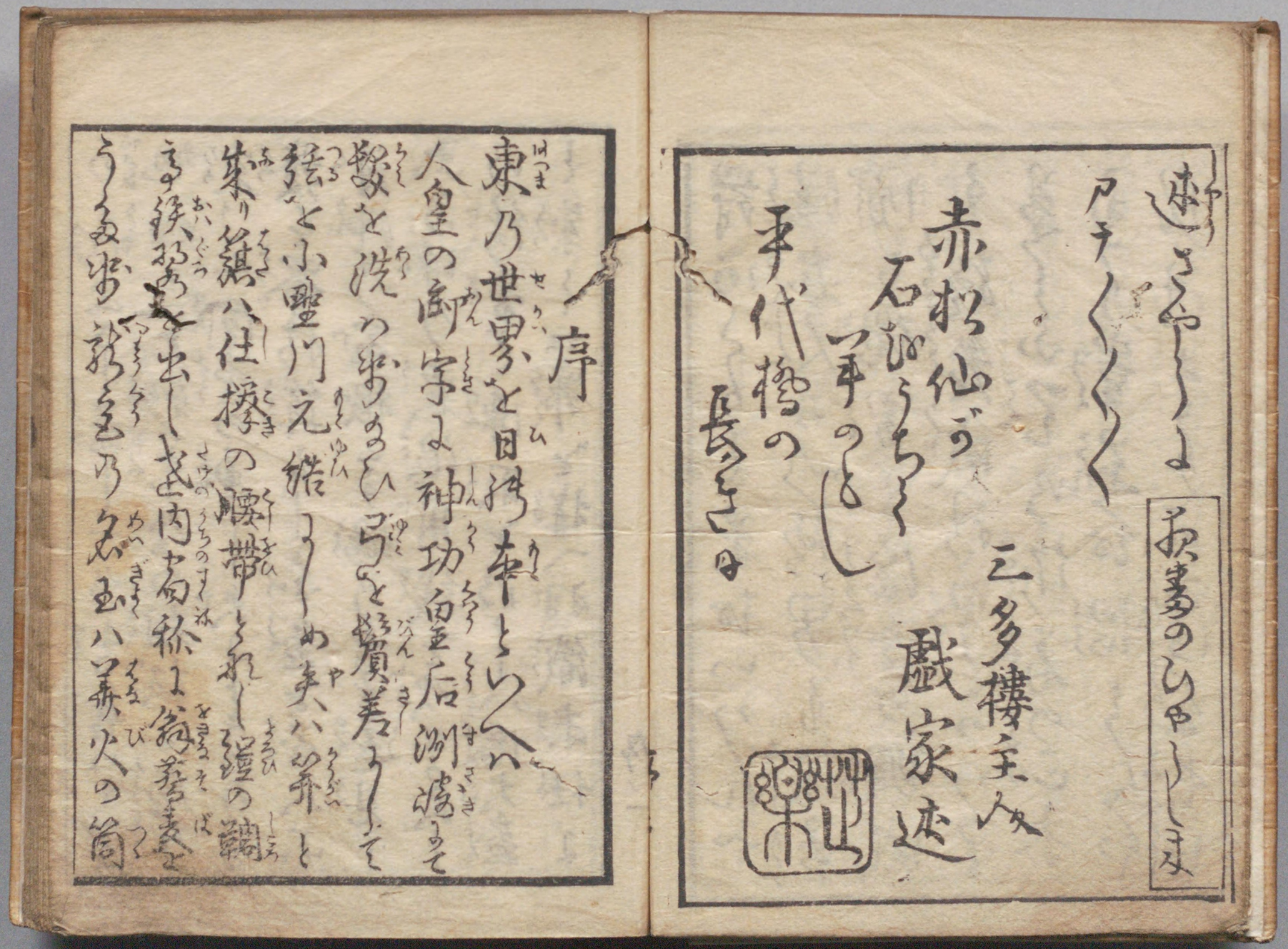
自序

て此一ナ戯場このやさん橋の
義を乗て乃本舞台
ひるナ嬢簾りも嵐小戸
あまハ表ょ櫓ひる武三義法義
若表ひる孫ハ多へ二人のもの
丈一ひり手伝有妓女い恵して家を

留場にのこす是ゝ見物の
彫ひとら寶物ゝ世ゝ
世帯乃ものを遠くの時ハ
親に動書乃懸ゝ悪ゝの
飯なくゝを動苦懸悪ゝの
毎日金銀ゝ陳度乃ゝく拠
指ゝ一ゝ石ゝ金吉

罰ゝのゝとゝ是ないんや
濃安人ゝの男も張ゝ
ゝの碗男ゝ隠ゝの媚成
ゝ強老成ゝ男ゝ
是ゝふゝ作者の三木
毎ゝ豊ゝ
飛ゝ

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用



御さうし

あそ事のしゃうしまた

赤松仙ず　三多樓主人
石ぶうちく　戲家述
一年の
平代物の
長さ

序

東乃世界を日ぬ本といへい
人皇の御宇より神功皇后渕源ゆて
数を洗ひ歩のもひ弓を賛美うして
弦と小聖門元結ゆめ矢ハ箭と
集り鎮八仕擦の腰帯ゆ乳の鞠
高の鉄砲を出し武内宿禰と義美と
うゆ女歩ゆ乃ゆ玉ハ義火の筒

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

序ノ一

この[illegible]上[illegible]乃[illegible]の[illegible]
[illegible]輝[illegible]一[illegible]菓屋の翅板より廣ケ
[illegible]こ[illegible]閑堂の[illegible]矢よトキの[illegible]を
[illegible]を[illegible]籍[illegible]魚を[illegible]又玉
[illegible]乃家根[illegible]鴻乃[illegible]遠見し
[illegible]乃坪乃裏浪用銭を吹七[illegible]ト
乃後番ぐ陣取を[illegible]し八幡大魚
と[illegible]く一廓を掃へ羽織未社よ

こ[illegible]ちこ[illegible]ぐ責さ[illegible]既[illegible]賀川
乃深[illegible]仲街艶談と略小冊よ澱小春の眠を
[illegible]ハ孤次が[illegible]屑籠へ入らん事
[illegible]知[illegible]ぐ[illegible]事[illegible]掃[illegible]

孤花と黄

東風亭
如栉誌

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

目

一夫の生かくさ　幕
狂言のひつかく

一寿つはりてさ　幕
恵比寿ひ

すりけ家業
口舌の世話　幕

諸

金の鶴より戻る三ツの女難当大磯ゝ
あづく心安ふ寄て八危ふ近まざるとき法
者幾重名ふ毛匂ふ唱子の高ふ神を祈
八芸ふと加ふ七ふ加ふ深れて国ふあ家
業ふの始ふ奉ふ毛ふ捜して財気の拾場
所ふ迷更ふ危ふ出ふ毛ふ同ふ名ふ家ふ
の生存年船ふ八諸侯の如ふ者ハ倍臣ふ

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

等しく[illegible]三人の[illegible]床屋[illegible]
[illegible]の姿は[illegible]人合ま扶[illegible]あ[illegible]ぐ[illegible]大平[illegible]系
[illegible]いふ[illegible]実情と[illegible]ろ口説あるとか
[illegible]迷ひ突出して[illegible]自ある[illegible]
だヨウおまゝ中十の一声ホ[illegible]襦先へ階
ふ[illegible]上り[illegible]こ風器[illegible]る離本を[illegible]ひ
焼[illegible]の[illegible]る勧[illegible]各桃ホ何[illegible]る
扶[illegible]ん逆[illegible]舟の[illegible]ある[illegible]西

[illegible]の[illegible]女を伴ひて立、湖ホ[illegible]は[illegible]范
[illegible]ぐ苟[illegible]かくやと思ひ数酒の[illegible]
[illegible]の鼻を[illegible]き[illegible]下駄を[illegible]て
帰る廻しお[illegible]上[illegible]履を吹[illegible]
[illegible]ひ付て提て来る船[illegible]る[illegible]泊[illegible]
[illegible]の[illegible]ホ[illegible]をうるる[illegible]
茶屋に[illegible]て外の[illegible]や〳〵行[illegible]の
[illegible]る[illegible]ホ[illegible]

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

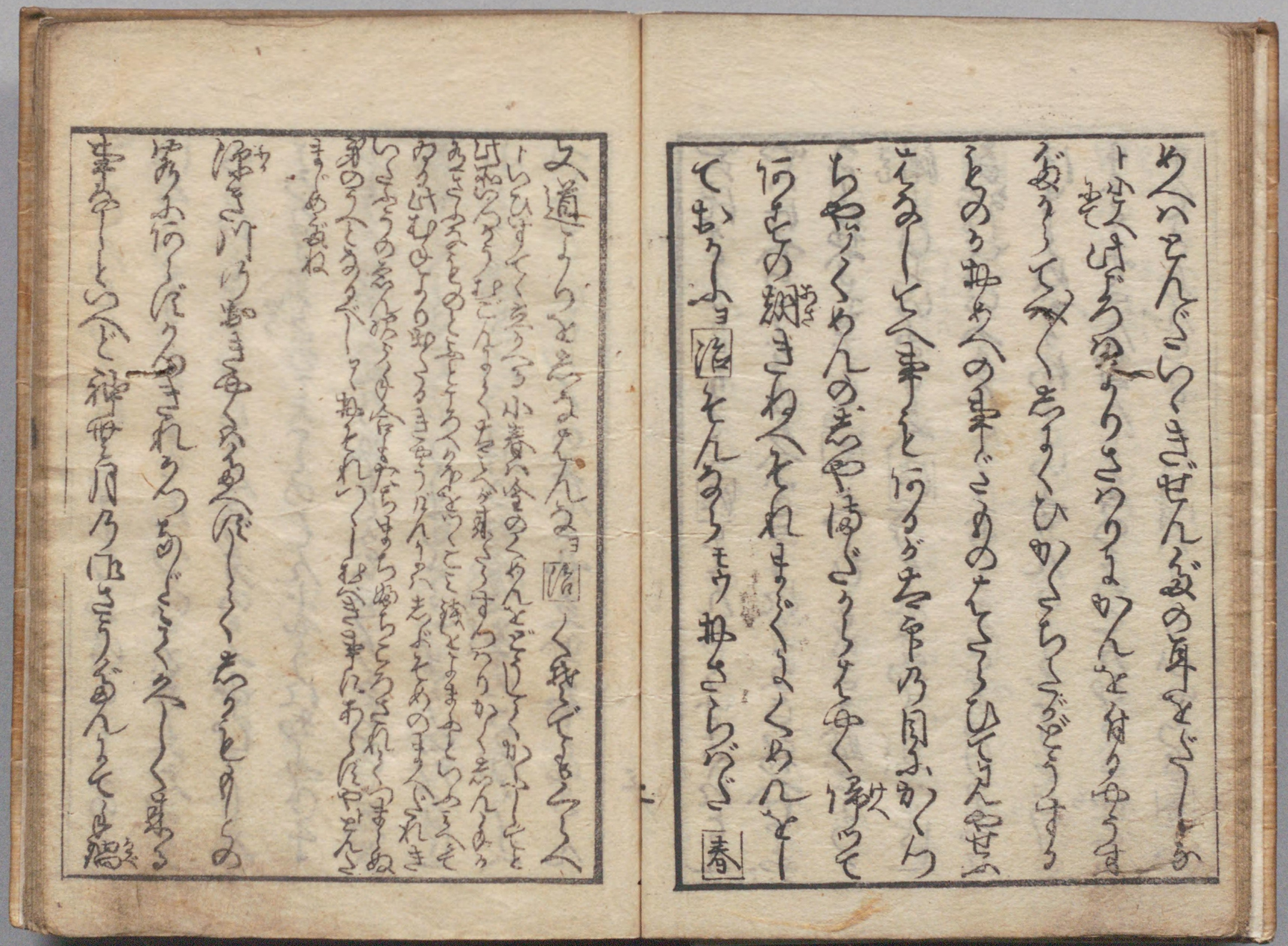
朝あさ〻出仕ゆづりし家と髪を梳ふ女
足つもゝ[illegible]ふ[illegible]し色[illegible]なる疑皆女色
の逢ひ[illegible]ア、情し[illegible]しきハ[illegible]
んと惜もが[illegible]ふ[illegible]の[illegible]ハ此
逢ひ[illegible]色よ[illegible]やち[illegible]あんかなるふ
ち〻れとゝふ人物を和漢[illegible]て
かぞへがたし四西を[illegible]る[illegible]
妖洞主人利

深泉遊子 仲街艶談 戯家山人著

八幡相 ボラウン〻〻 祈り〻〻生涯のかたちのかすを活業 ヨヤ
濱のものこどもうかはだくり[illegible]
紙治さん出のゞんあ[illegible]
[illegible]いろ[illegible]
[illegible]ちゝ[illegible]
[illegible]小春さんをよんでなげ
[illegible]

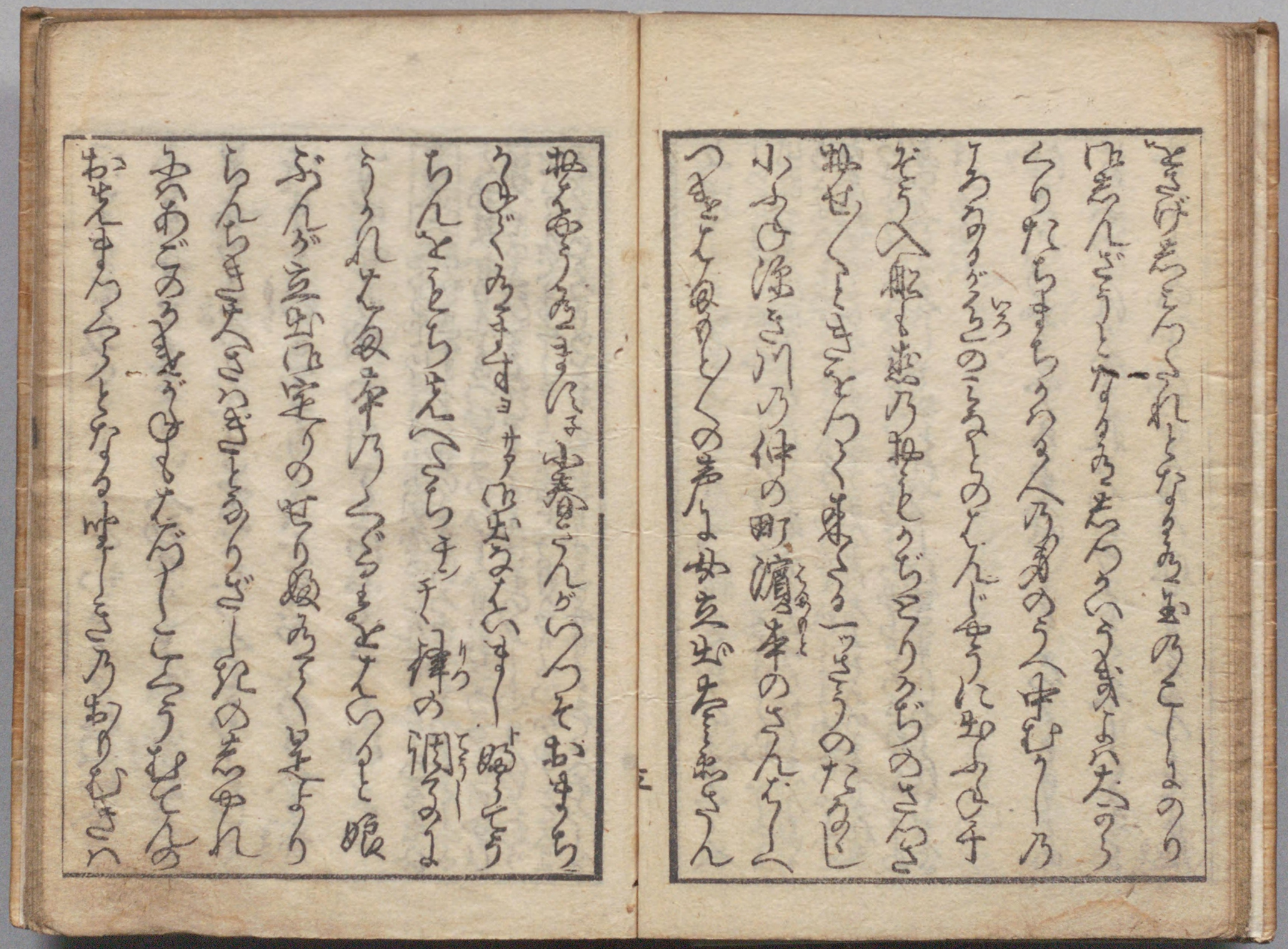
春 きのふまちをしくねるこれなぜまたんねん
市場の家賃でもいうこのうんがやんこんな
うくしくをこんなわるいいせうちのまくぐるよ
治 ヲキヤガレそんなぎんきぐらねへたらよ舎ろう
春 イヤ新川のあさんこんやちまんていろ
といろくこと工ねうち第くねうぐ和のきゆく
うちもうもいうぐ生ハとうくおりへのうす
というぐこのかこのといろくねうこうこうこん

やはりがうがりとりイよ 治 そんなうすぐにとん
やいけいらうぐよりまうにたるさ行へけやや
うう行りときぐろう 春 えひとひるさ脇そろぐ
滅しひといるうへ 治 ニアそんな物ご身をど
あいうえトいふりんざうう歩くまとぐのけうまり
たまりぬうう行ろいふりんざうごそこのう
ゆうぐくふさんぐんとうあうこんそうぐ地ろ
ゆうぐくあんのうりひはいうりひゆうさ 春 お



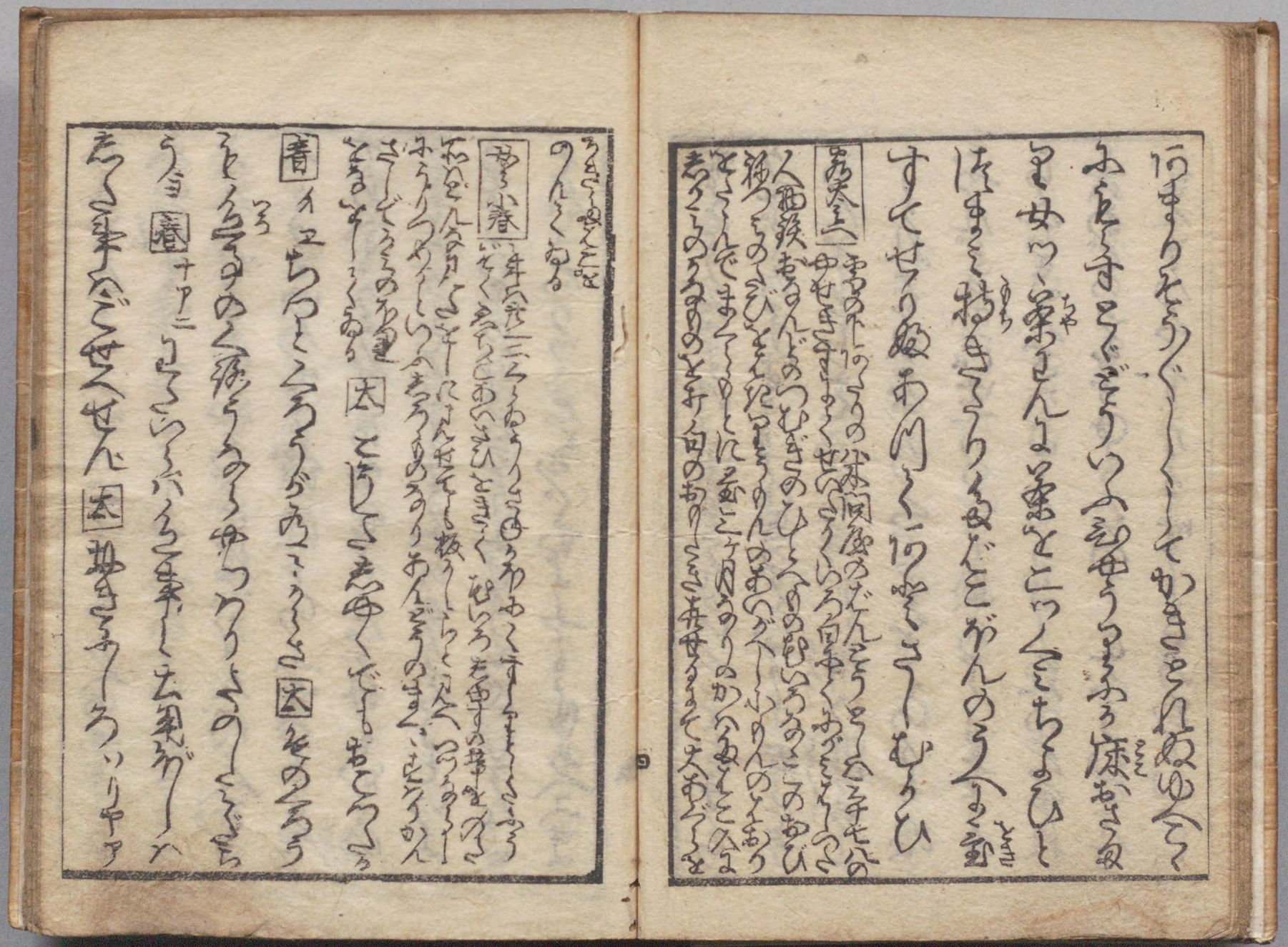
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



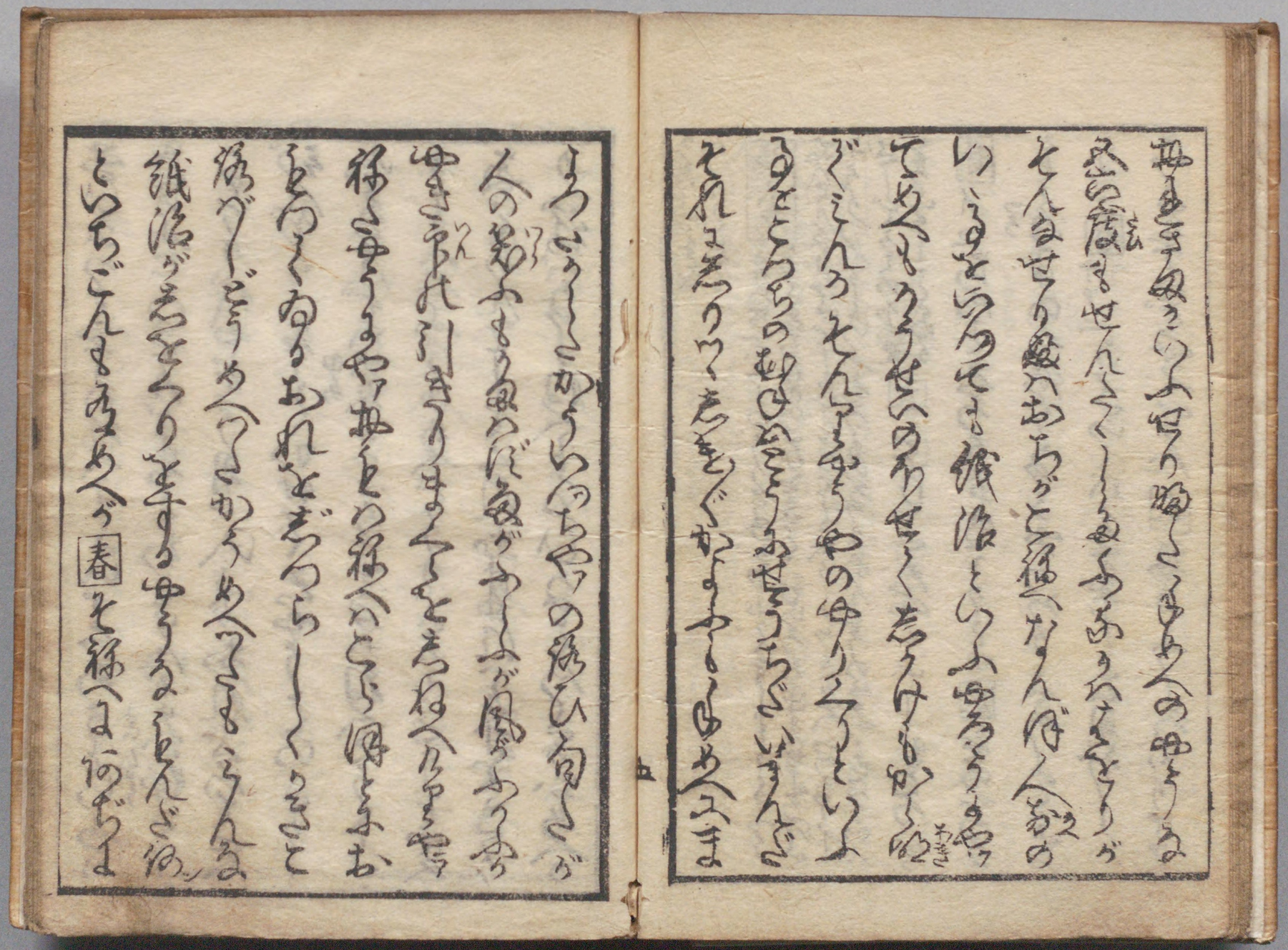
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



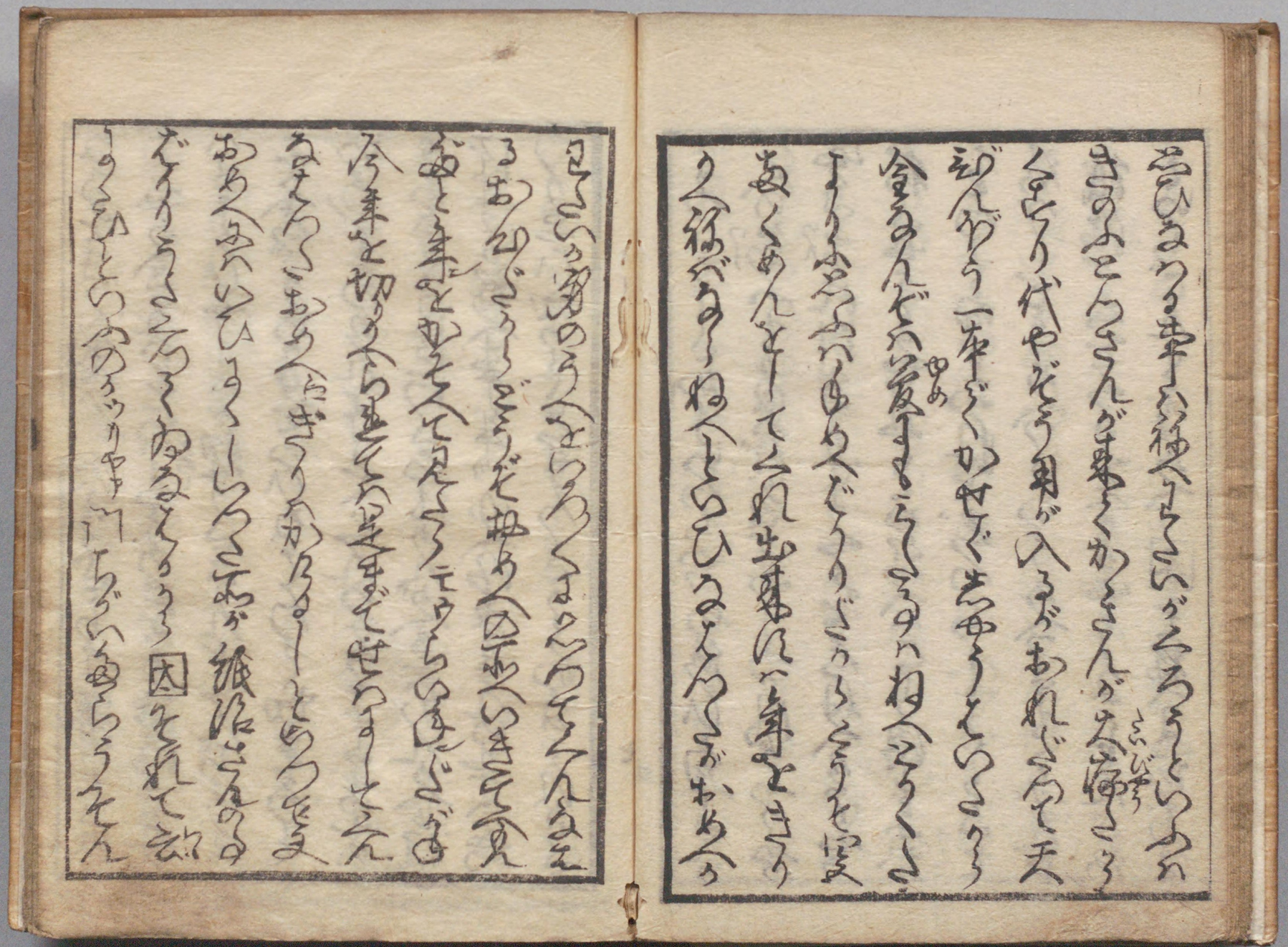
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



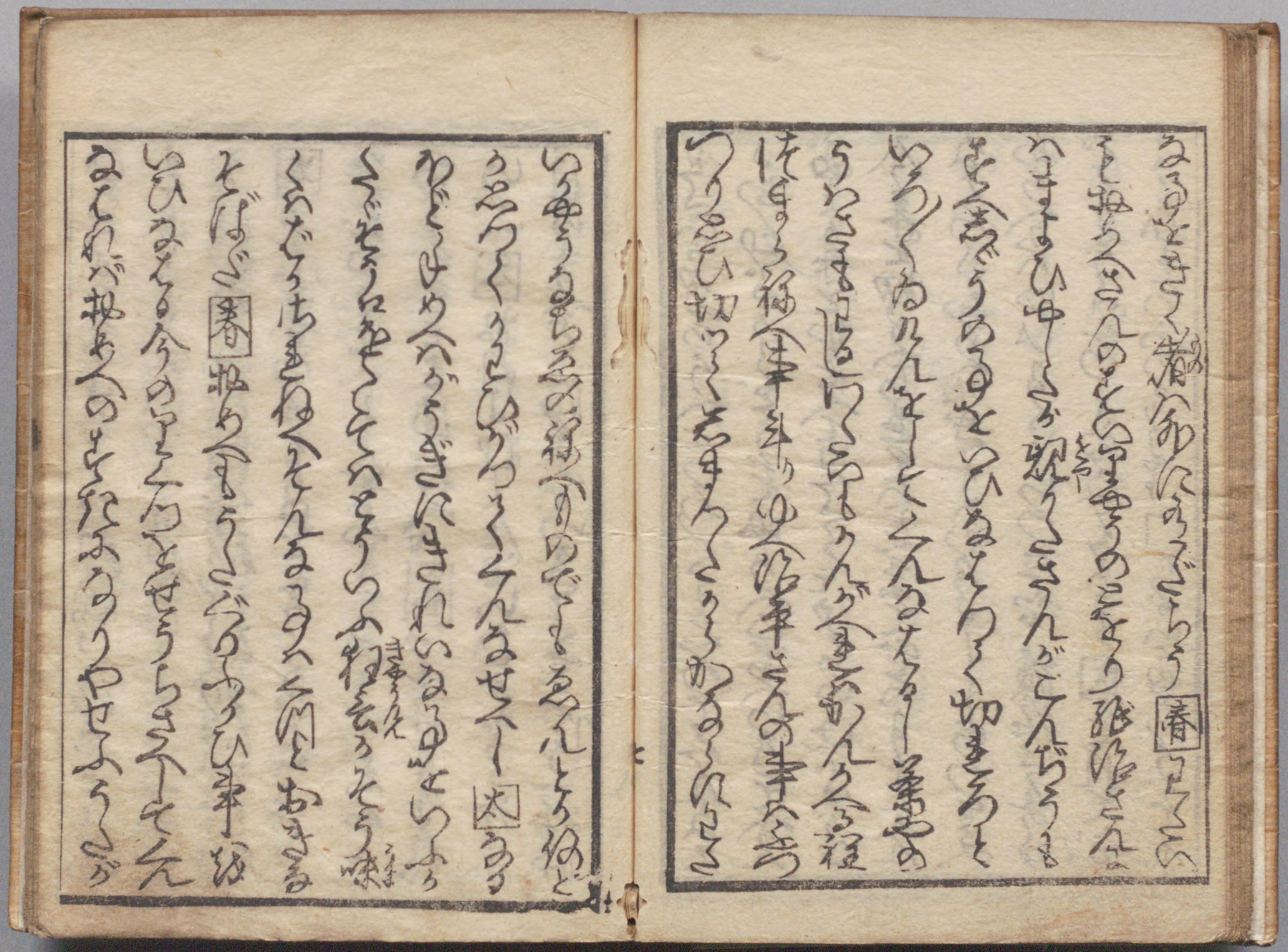
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



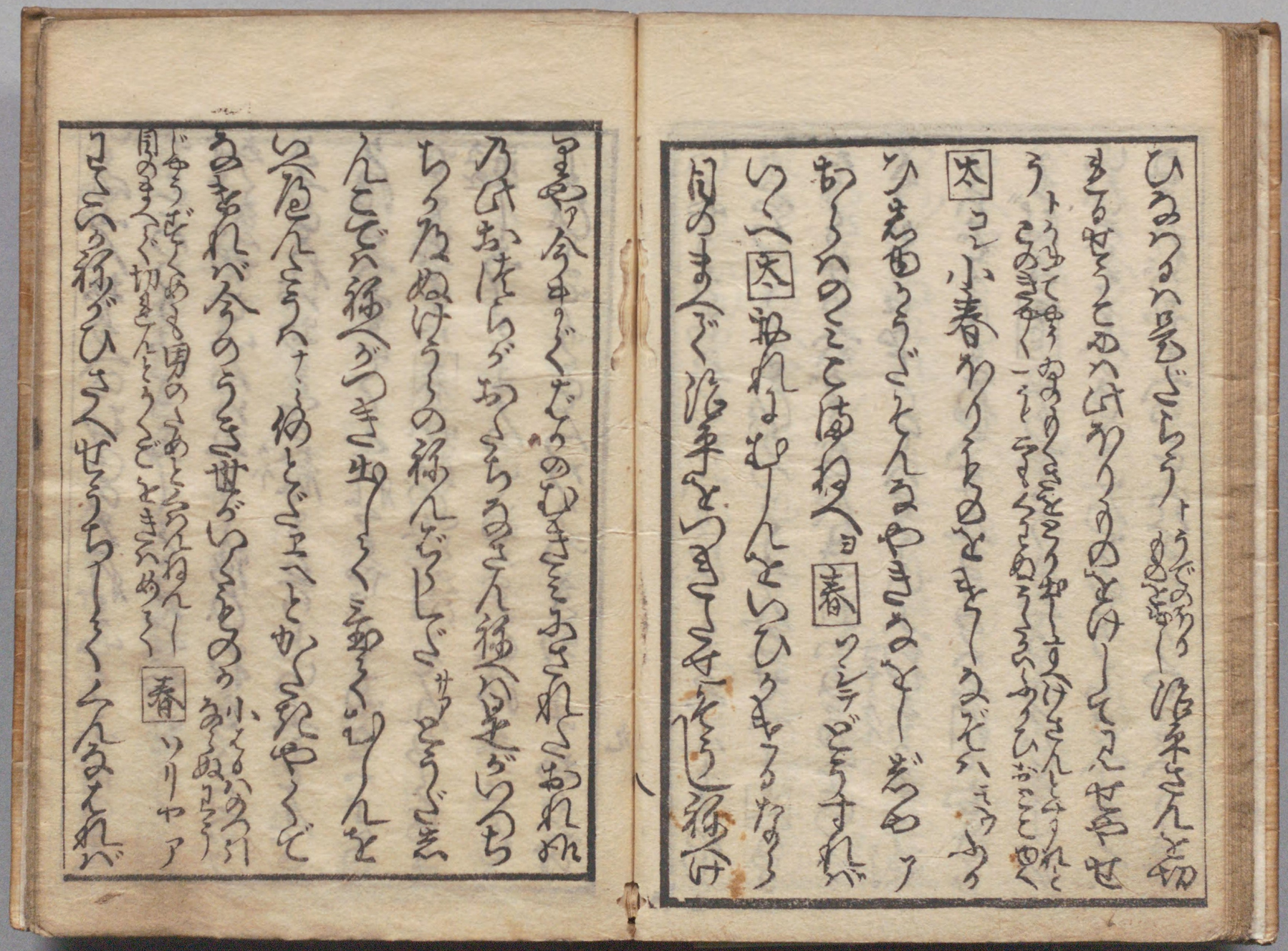
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



ひるつるハ長ごらう／トうでのろ／ものさん／とゆ
まるせうとゆハけりうのゆとゆ／してこんせゆせ
うトうゆてゆうゆのくさをこうゆ／ゆけさんしとゆうれと
らのきゆく／一とゆ／ゆくらゆ／ゆうこうゆうひおこゆゆく

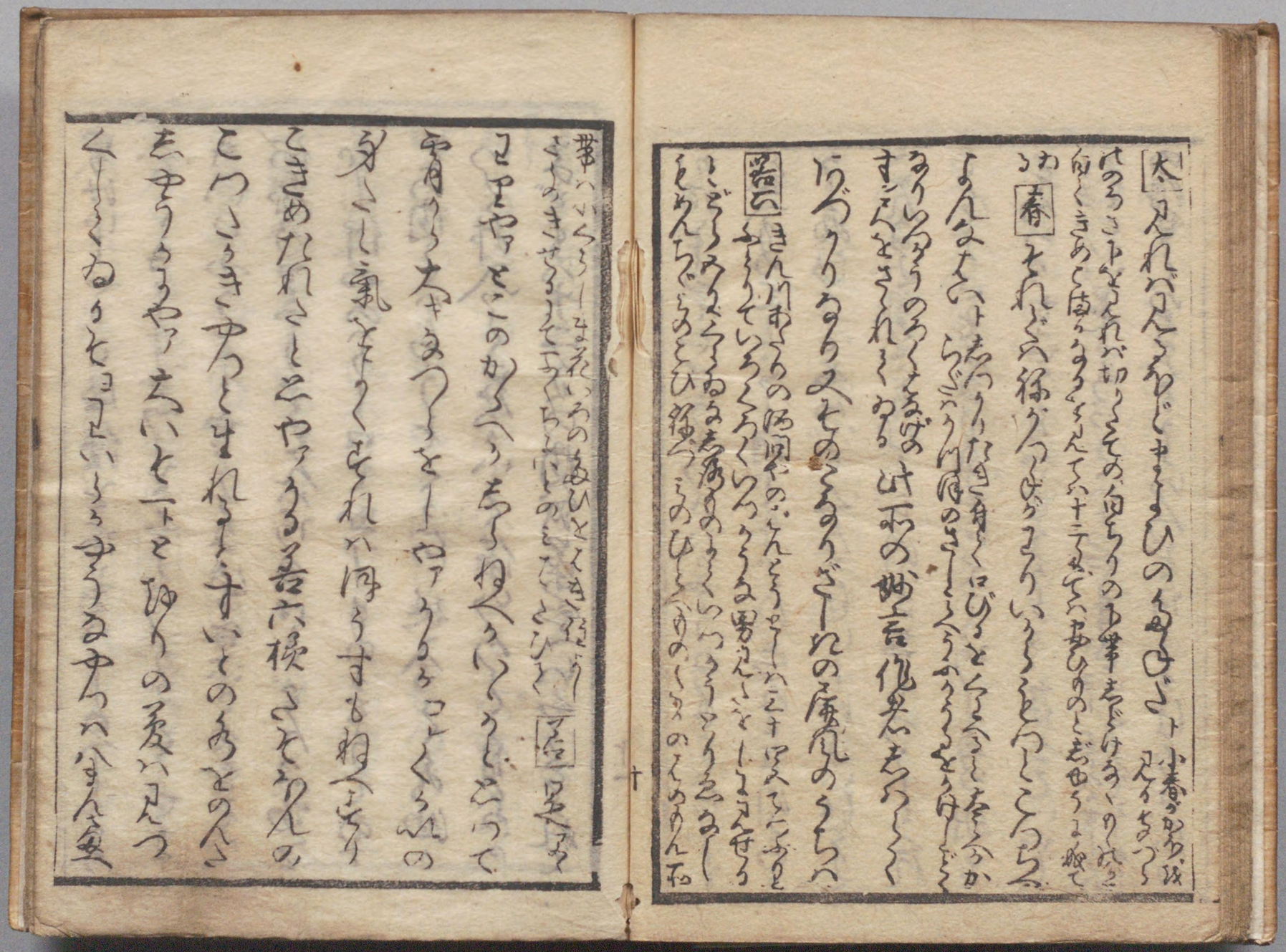
太 コレ小春ゆうこゆものをゆ／ゆこんでハゆうゆ
ゆ／ゆ／ゆ／ゆうごゆこんゆゆゆ／ゆゆ／ゆ／ゆ／

ずいぶん物ものしのとれるゆうふ月のまえ
でもとりはきゆしくらんせやせう 太
すてられてくるそとひつい物り強ひ物ちごくッウ
さえもれびおまで都もちうといふとんざ
うほうさいきてくれアもあやア十あげ二十あ
でも出さとハ 春 出すぐ仕ちそんなのさ
ゑ出しつくまつてゐるとハ治平さんを
よびよりもとつぷりつき知ておりへの

九

かゆとうそわせうつくさいうゆうゆもとつて
行ゆめてこうゆどまぐにちんこゆ行くゆる
うゆひんとちつくくんゆせいしつさいひそて
こんゆ氣をとむよちゆとゆちつうて行
てもよさそゆりんゆ行てもつけ毒の明を
もつうかこをなやせうう三ア森ないや
ときたんし常をとき 是うゆこくいちやまる コトハ たべんの世ア三拍
のゆせくゆるくうくいつとつけうちはゆるこいヨ

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

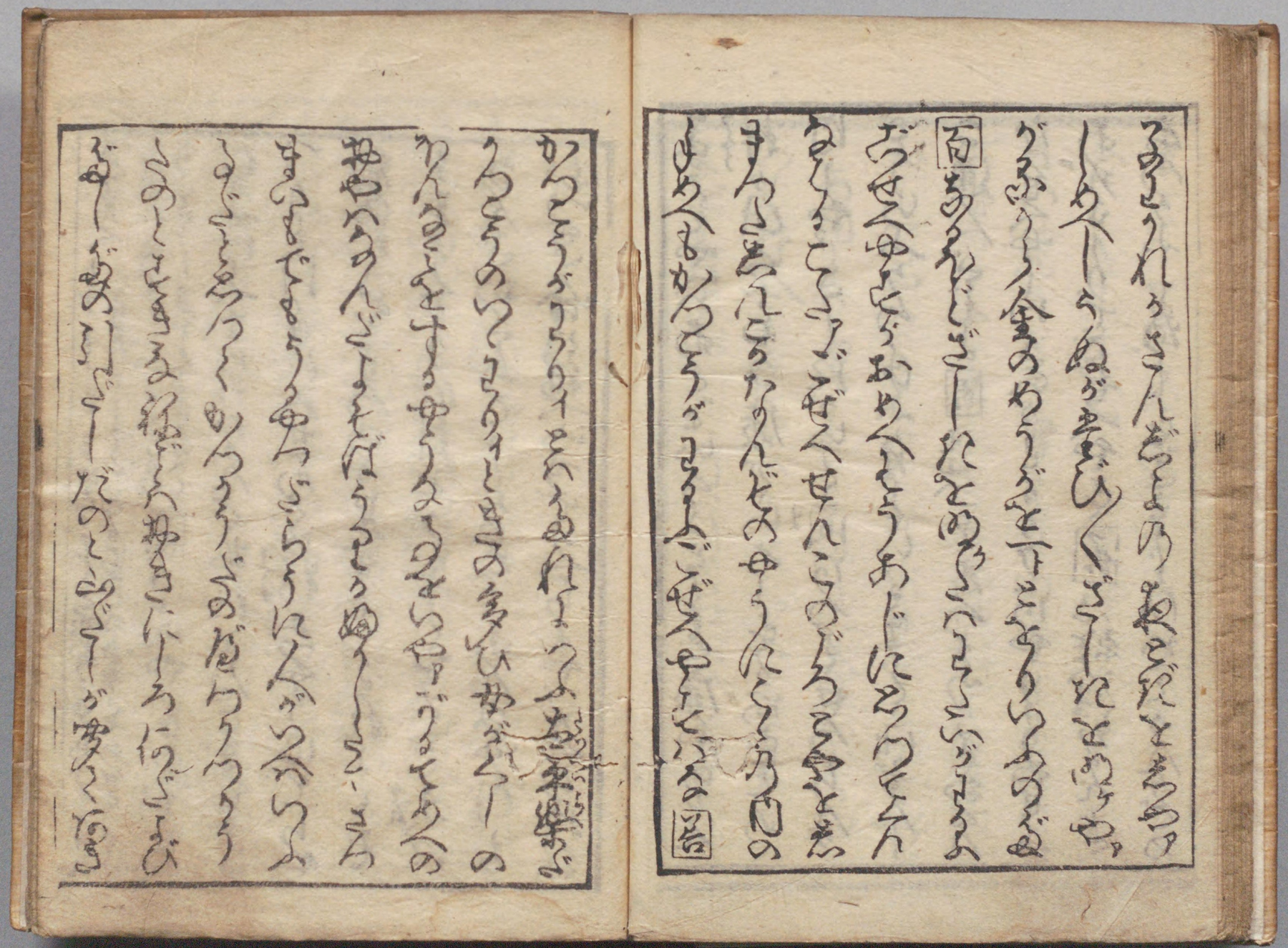


国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

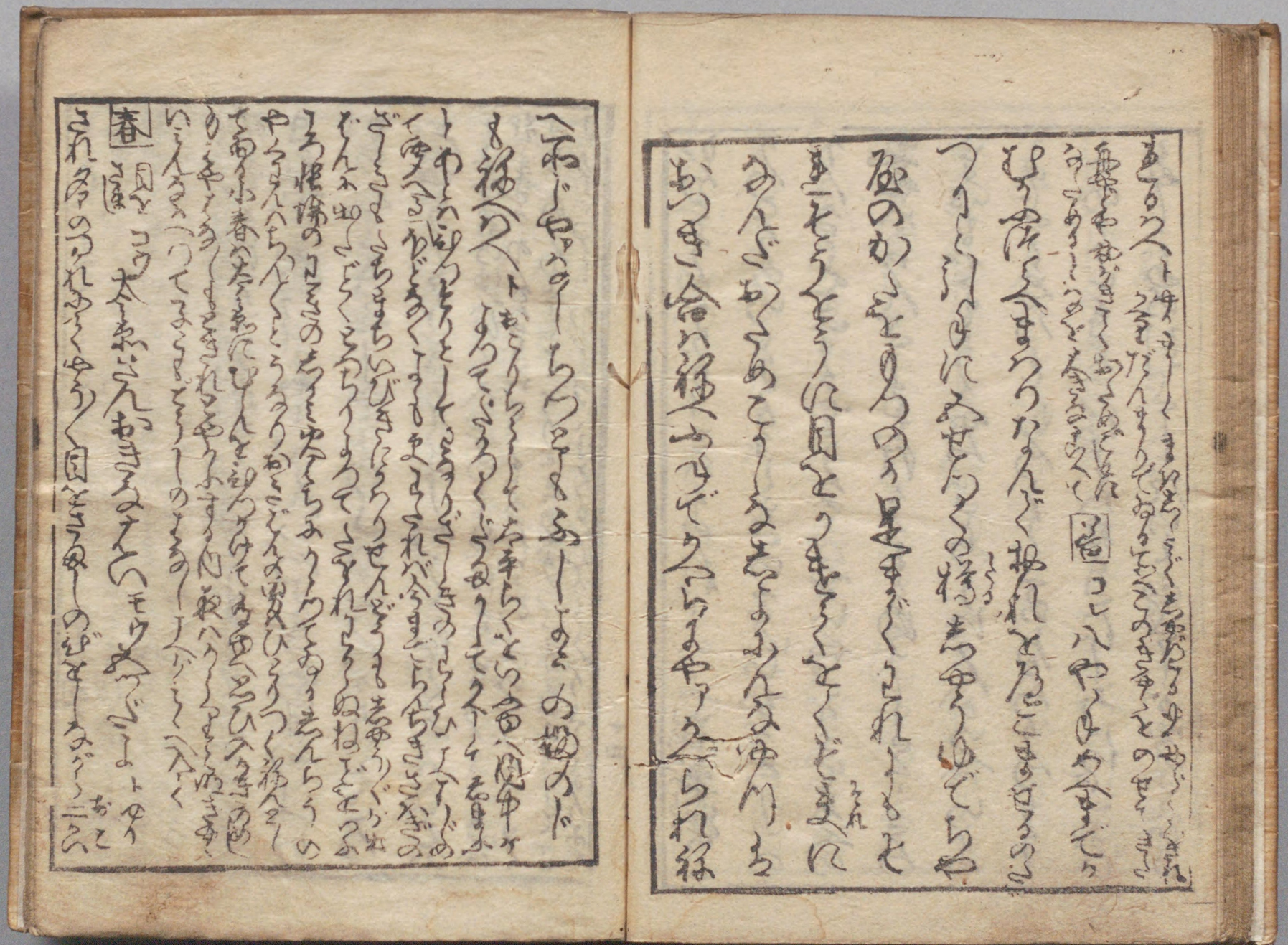
男けいーやうこ風俗をなをしめへーうろ
合くきこーすちろをこーーやうろく せよ
きいこふうをーーーやうろるはろ合六さろるそな
何屋ろるーーーーーんへいろるはくとんろ物を
出ーー何やのへりーーはて出ーーすのうをうてあす
この内くいらうとくうー伝 挺入ーくあ油
いくーー入ーくーーいく俵いーくー自おの
ろどもいすーーてれの内城ろ藥やへいーうそれて

ろどうとやへいあそをいーうーーーーーーーー庫のとん
ーーー料がーーくーーるる庫ぐいくーーーーーーー



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

ぐるゆつでやア稼へか 春 ぜてげきゆうがんのふれのゆへそらぐ
〳〵銭治さんはんまりうきのはよひはい
いろをはくひなんないふ銭の出ねへほど
とく太平ハおきまつ世へ〳〵トふくらふ
治 うりくからうさけさのないをつくへ何
でとをさのがうすくてたうなう稼へうまわア
おまがゆうなたうつくされふくつまひて
ねへくをたよせんたづはゆう稼へといか

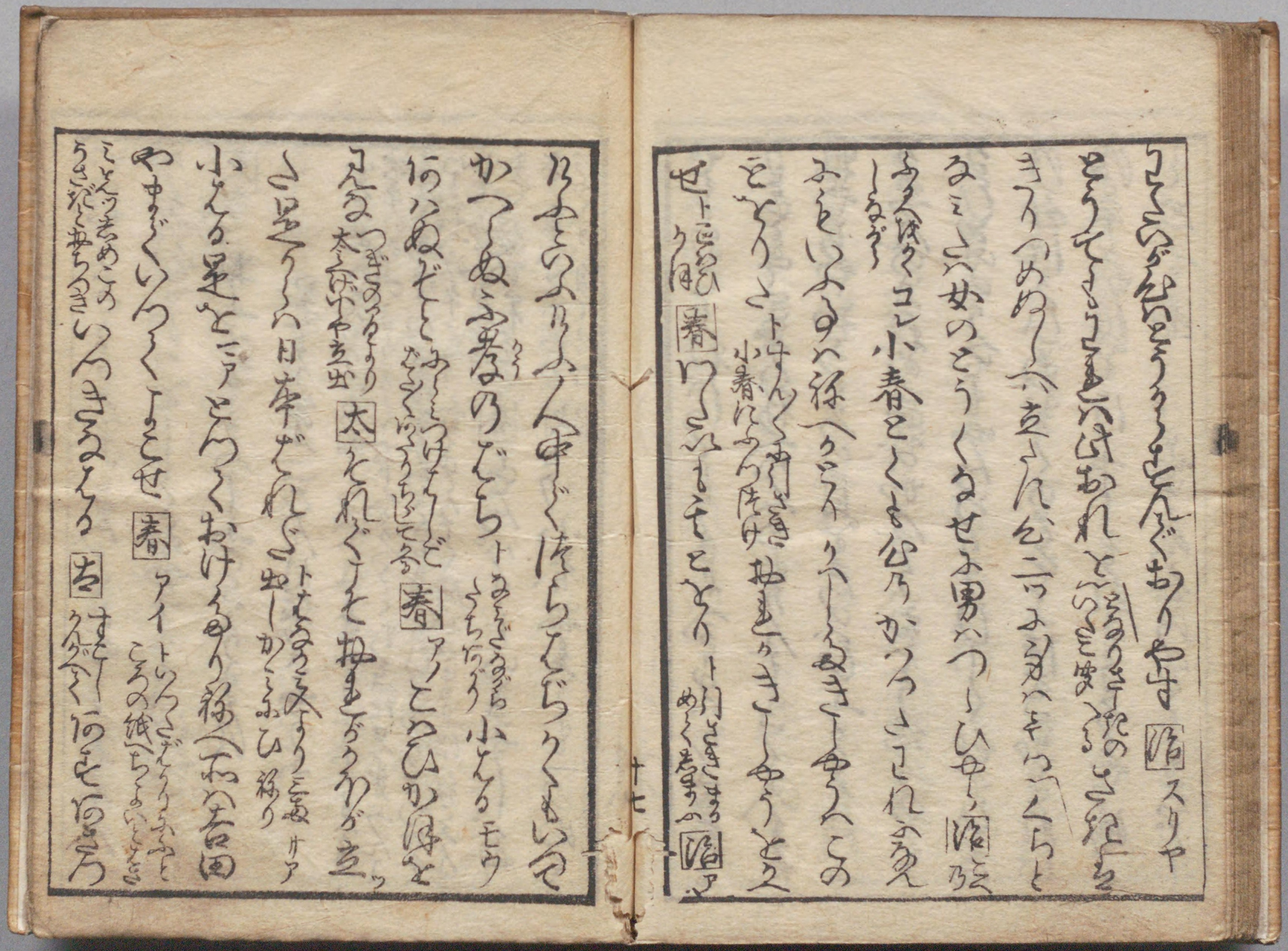
〳〵ちらぶうくきれくたまりうつといつたうまう
きんぐ今のゆうに気づくいふいきれる
しいふなどう 春 なんぐへなぞぐへうなぞく
なんぐうつくう稼へョりつくへがうんがぞゆう
をはくてもおりへのりうにぞゆうが稼を
いふりんぐうう切りやよ 治 まやへハはぐう
りうう稼へ本ようをすうるぞゆうう稼への
かぐが稼へのと記とりりのが物うとれとしわ

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

〜めく〜コとそうされと切と
できるを物と〜ゐゐ
うと人 春 物めくも姫ゆう
けつとふ〜ようたねの
そんなふけてんなさうま
ミと物人けてなれ
ゐひき〜ゆうをんでとた
一つ物ひとなれくわてもてきく

でと物こてねばけてとまめ〜ぐらのかてとを
うとまてて手ゐ行人の人のゐりんをきて〜まだ
物やどりやあてくうの貝をたつのひふてくゐ何さ
うゐ人のきれめう祝のかんなうゐをうのてう
ゐひ男のうんでもゆつりてひ〜ゑどひ二面
乃ゆたうひあぎくのとてふ法きゆされけ
治平ゐ物をはふ〜されくうとまぢ流よ
ととふう 春 アイサ とまぬ乃中ゐも花ゐ

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

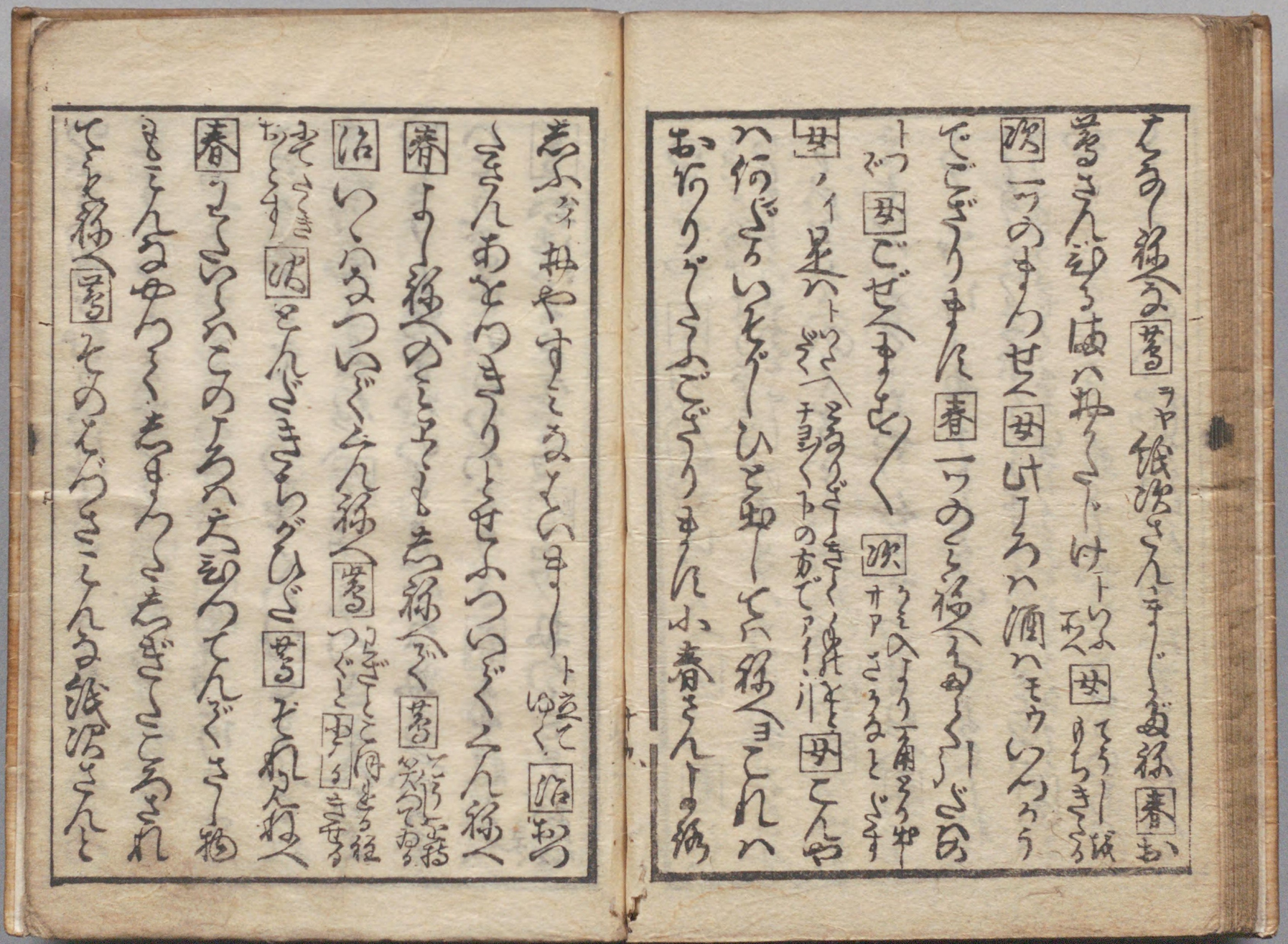
てにかうぐさうさあさんくこゆう 春 わんと
うう〳〵ぶまちをしくるやすよトいまあへとより
舟やどまり
次 ハイ おまつがようしふぐりまして
是より第二ぞんじ目張りさあうふ
小さるやのようりに面白ふぐはけ第やりまく小さるへ人をて
次平にあふつりまくさへ人がくくしちきに足ぶんよ
くるくあんちよみをあんくおもきよひとはりをつけて
わりあへ次平まくまるるるくく底おさまる 治 ほうろんで
小さへ人 ちいさ 目の 猫ぢへ 春 さちぱりといきゆ〜あト
底の平へちぐいに成
ちふくすい身てのむ 次 コウ 小春 梅まてる一ウ梅く

十八

のまつせや 春 すひつけ
のまつせ
次 ムヽ 春 ほさ
あぐこのの中ようさんを次平さんきのあのさるの
かひそちくふをぐし 次 ムヽどう
ものをとへくをくよト 紙ひぐうこんの
まをいろがるくっちやア 知ぐおちあねく 春 モシ
あくさア何のあまもそうういってよこしね
トさるりてるちくぶくるぐ兄弟ぶんのおっくこころハ
のうくんのうさをくあのに立ちうくをとをうねぐう 雪 お
記さどんくをちりが素くうおせてぐがのあり
くあくあせへトいひくきくる 春 お若さんちく

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



[illegible]

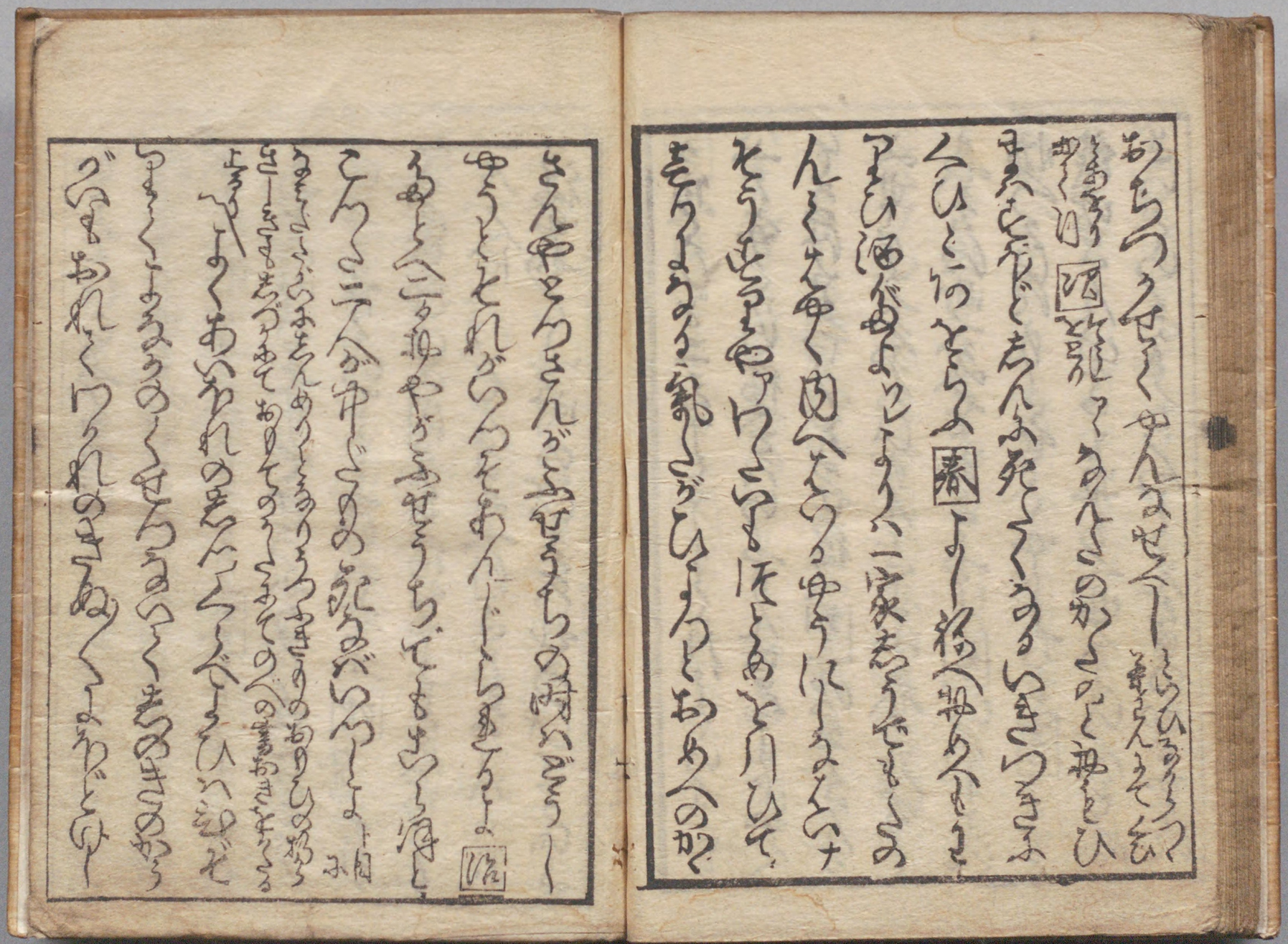
[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつぞの男がむうふかたへぐうぐうたべつふるつ
てまあのしこだるろうヨ 次 おつゥ合せるの
ぢめへもちよせへハ稼へハ 春 モウ何しやア
さうり用うてとつきく引こまふこれ
ぢやア出ようもねへ 次 コウ 扨つさんちよ
いとうしかをむいくんせる扨りへのうこ
へさんどもいうこかんこうぐ 春 あれどう
 おたよさんどヨ 次 コウ 扨つさんお客

こいりくひと二三年ちくいくらい
ふとあくり稼へいふりんの主ふ家へ
でうけアあたせ稼へ 笑 次 年さんの
文せりうへうこひりんどよ小春さんの
あ客ハ町へあを出ふよ 春 いやよ
扨つくひたりもせくゆふふる 笑 モシ
銭ぞさんけつるも出ちりへゆへよいつそ扨
さいぐいるうちつとえ主の出るあ



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

かてをもとぶらの袖よりおくるいれうろ
次 世ろのいろをとこひまへせびまろすほど
中にはつまぬるやたりり 春 ろとろもせれ
ろのそのはへは是までせろふろうろさ歌方さん
のぎりをろいてもふけやせふ 次 コリヤそれハ
ろびのむのの内うちのまろ毛ぬ何ろり
乃人間ニテそんなめ人間さろるかなく
稼ふ〳〵一時のびまえ入ろひせろいさ

之花乃さくろもなろうヨ 春 ゼこん
ふろうこひをまよわせるろさト 次 ゼ
次 世ろでこんろふこ毛んふろる
もこんなよめ人の記ハよろうこゆてさト
春 ゝ〳〵記ハようたろうよハろれろ毛
ふこひのうト 俳名日 ヨヤお
つなひのちふなろうヨ市もとろうさ
きたねろるが代姫云よ世まるねとう

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

ちひうつふるく筆をすてぬ
右後篇擬く行らんかへ
そまつ

跋

神僊とは何をや霞を喰い虹巷
飛行自在なる事を得長寿潜
奥を云つよ行ふや今戯家の親玉
ご着述なを皿乃深泉ハ美食を
喰ひ涵ものゝ花ゆ自在ハ備ずと
駕さんども岡と行者稀ありて

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

琴高羅漢の仙術も豈金仙に
不及や近て浮山人辰巳中街
に至り神妙挑灯を伯よみう
けたの歩いて西乃美声よハね
先暗筋夢中と朱而世妄云を
作り呼玉増の猪牙早くいで
四十方ハイ由迎ハ是ハ生てとせん

208
49

通ってわく癡まとわく楽むを恋くるを恋ずや糠
ほどきをけく指乃ら猪の方ら
やちまのハ世ましとちまくも
きしくと姫くく是を後よ紀

我楽多庵
東邊木述

国立国会図書館　仲街艶談 208-49
ガラス使用

仲街艶談
第一番目 土喬新話 小本冊

小いなのまつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛政十一巳未歳
正月吉辰

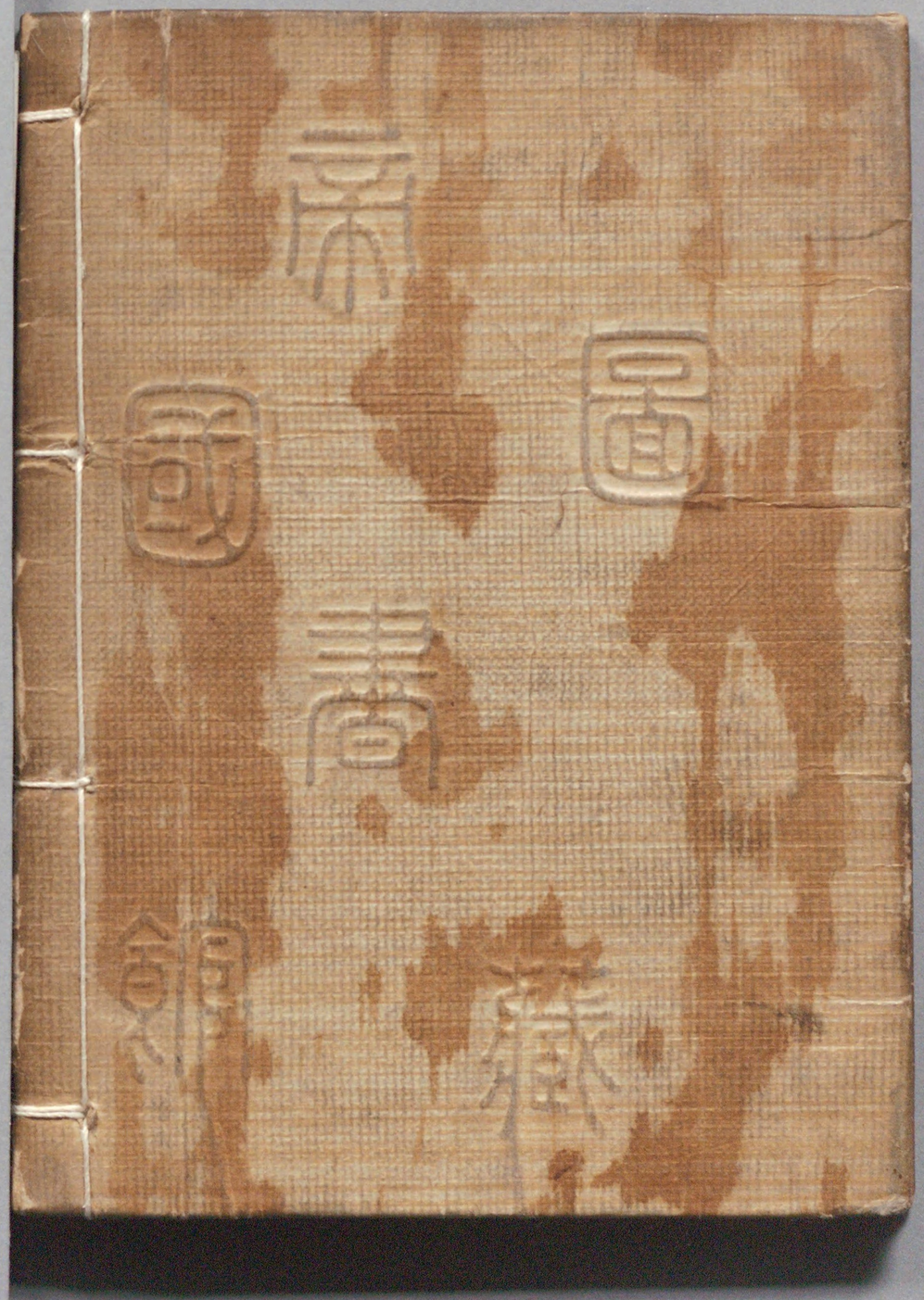
国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用

208
49

国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用



国立国会図書館　仲街艶談 208-49

ガラス使用